



題字は松井岳洋筆

No.400

平成22年3月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認可

碩心会

発行者 加藤岳洵

編集者 伊藤岳光

神奈川県葉山町堀内206

Tel/Fax. 046-875-3723

URL <http://sekishin.holy.jp>

漢詩の心に思う

広報部長 伊藤 岳光



機関紙「碩心」が400号という長きに亘り会員相互の唯一の会誌として連綿と続いて来たことは意義深い素晴らしい事だと思えます。

編集に勤められてきた多くの先輩、会員の皆様に敬意を表します。

去年の夏（8月13日より4日間）我が家に陳さんという中国人の客人がありました。

彼は日本商社の北京支社に勤務しており、30年ほど前、上司だった方のお墓参りをお盆にするのが目的でした、突然の北京からの電話で、宿泊をお願いしたいとの依頼があったことを夫より聞いたときは本当に驚きました。今の日本人は、個人本位に走る人が多く他人への思いやりを失いつつある世の中だが、日本人が忘れかけている「大和ごころ」を思い出させてくれました。

彼は日本語が話せるといつても十分ではない中で、私が詩吟を稽古していることを伝えるととても喜び「春暎」（孟浩然）をスラスラと歌うが如くに暗唱し、私が「春望」を学校で勉強したこと、私の好きな漢詩であることを伝えました、今なお様々な漢詩を暗唱できる彼を目前に、ただただ感動するばかりの私でした。

ともすると漢詩は平仄（ひょうそく）、押韻対句（おしうんたいく）だのと決まりごとが沢山あり難しいと敬遠しがちですが、漢詩は自然の妙趣や人生の哲理をわずかな十字に凝縮した素晴らしい芸術作品だと思います。古ければ古いほど悠久の時間を経て数えきれないほど多くの人々に愛されてきた作品なのです。

それらは心を癒し豊かにしてくれます。本場中国の人々と同じように味わい楽しむことができるのですから、漢字文化圏に生まれた幸せをしみじみ感じました。

陳さんの心もきっと漢詩を学ぶことにより高められた結果なのだとの思いに至りました。

行事予定

詩吟体験教室 Let's SHI/GI/NI

日時・4月4日(日) 午後1時～2時30分

場所・葉山町立図書館・2階ホール

神静地区吟道大会

日時・5月4日(火)

場所・小田原市民会館

逗子市詩吟舞連盟春季大会

日時・5月9日(日) 午前9時30分開場

場所・逗子なぎさホール

神奈川岳風連合会青少年吟道大会

日時・6月13日(日) 午後10時～4時30分

場所・鶴見公会堂

碩心会吟道温習会

日時・6月20日(日) 午前9時10分開場

場所・葉山町福祉文化会館大ホール

碩心会夏季吟道講座

日時・8月22日(日)

場所・逗子なぎさなみホール

神奈川岳風連合会吟道大会

日時・9月5日(日)

場所・鎌倉芸術館大ホール

碩心会皆伝会

日時・10月10日(日)

場所・逗子なぎさなみホール

碩心四〇〇号の感慨

会長 加藤 岳 洵

このたび「碩心」四〇〇号の発行を迎えるにあたり、歴代の広報部・正副部長の並々ならぬご努力とご苦労に対し、感謝と敬意を表する次第です。昭和47年8月に創刊し、38年目を迎えることができましたのは会員皆様の理解あるご協力のお陰であるとともに、碩心会の誇りとして自負できるのではないのでしょうか。三井雲岳（岳隴）二代会長の発案により「吟道月報」として発行されましたが、これより前、昭和47年4月に堀内支部（昭和38年

われらの誇り「碩心」四〇〇号

副会長 内山 岳 青

「碩心」が今回四〇〇号を迎えましたことは誠に喜ばしい快挙であり、わが碩心会の誇りであります。

「碩心」は会の行事、会員の動静、吟界情報等の発信源としてだけでなく、文字に書かれた貴重な資料として長く保存され、70年史編纂の際にも大いに役立ちました。

また会員から寄せられる随想やエッセイ等には教えられることも多く、会員の方々の思わぬ素顔を知ることもあります。その意味で

4月創設、平成18年4月、6支部に分散）より小峰順風支部長（95歳で健在）の下「支部だより」が発行されました。（昭和48年4月まで13号発行）これが先鞭となった次第です。創刊号は、B4版の手書き、ガリ版一面刷りで現在の「碩心」と比べ隔世の感があります。平成19年に「碩心会70年の歩み」を発行いたしました。原稿執筆に編集委員には大変ご苦労を頂きました。「碩心」がなければこの記念誌発行は不可能でした。記録の大切さは時の経過とともに珠玉の輝きを増してくるものです。継続は力なり、広報部の皆様には今後共々健闘の程期待いたします。

は会員間の潤滑剤として「碩心」が大きな役割を果たしているといえるでしょう。

このようにさまざまな顔を持つ「碩心」が長い歴史を経て今日あるのは、先輩方や会員皆さんと直接発行に携わってこられた歴代広報部の方々の熱意の結晶に他なりません。

年間の基本計画に基づき、各号の具体的企画・原稿依頼・紙面のレイアウト・校正等々、広報部長、副部長さんのご苦労を見るにつけ聞くにつけ、いつも頭が下がります。

これからも次号の発行が待ち望まれる「碩心」であり続けるよう、碩心会全員でサポートして行こうではありませんか。

吟を友とした幾歲月

相談役 中村 岳 愛

昭和47年春、堀内支部の会員が50名をこえた時、「支部だより」が発行され、13号続きでしたが、当時の会長三井雲岳先生の提案で、「碩心会」として発行することになり、「吟道月報」として第1号が出たのが47年8月でした。128号（58年3月）までは手書で藁半紙にガリ版刷、松井岳洋先生に「碩心」の揮毫を載せ活字と面目一新したのが129号（58年4月）です。幾多の担当者により400号と続いた歴史の中で、私も10数年編集に関係しましたので一入感慨深いものがあります。吟と舞の傍ら毎月発行は余日がありませんでした。当初は何号続くか懸念されましたが、月報を通じた心の交流が親睦を深め精進の糧となり、会の発展に連なった結果と思います。手許に第1号からありますが長期連載の、「練吟メモ」に教えられ、「私のすきな詩」のエピソードに感動し、「教場だより」には継続の「和」を知りました。初吟会、温習会には吟友と手を取りあい再会を喜んだのも月報を介した交流の賜物でしょう。私も歳を重ねましたが40数年に及ぶ吟友との暖いご交誼は充実した深い人生でした。

皆様には心から感謝しております。

躍進を続ける碩心会にも

かつて一時危い時期があった

顧問 千葉 岳 関

昭和五十年代の後半頃であったかと思う。私がまだ奥伝クラスであったと記憶する。いわゆる総本部の分裂騒動のことである。

私は当時悩みに悩んで松井岳洋先生に相談に伺った。先生は「如何なることがあっても碩心会は割つてはなりません。今こそ会員全員が一致団結して正統の岳風流統を守りましょう。貴方もそのように役員の一員として努力して下さい。」と涙ぐみながら、しみじみと、しかも力強く仰せられた。私は迷いも悩みもふっさされて、正統本部の支持と当会の結束に微力を尽したいと堅く決意した。

現在発展の一途を辿る碩心会にも、この時期分裂の影響を大いに受けていたが、これを乗り越え来ったところに今日の発展があることを片時も忘れてはなるまいと考えるのである。ここで我を省みるに、正式入門は昭和40年、かれこれ50年に近づいてきた。

この間一時期挫折感を味わった時機があったが、精進を重ねた結果総本部より今までに三つの表彰を頂いた。即ち指導者の部、運営功労者の部、昨年は高令者表彰である。

これすべて吟道に励み、幸いにも長寿が保てたことにその因ありと断ぜざるを得ない。

また、少しさかのぼり平成19年には国から米寿叙勲と言われる瑞宝双光章を賜り、その時期行われた当会の大会席上皆様のお祝いの言葉を頂いたこと、今も感銘のいたり感謝にたえないところである。なお、ここにおいて半世紀にわたりこれが続けられたその根幹を、たずぬれば昭和13年からの海軍航空廠における吟練及びその後の軍務に合せての長年の吟練の賜ものに外ならないと堅く信じているところである。

最後になつたが広報40号への祝意と永年の関係各位の労苦に謝意を表したい。

「松井岳洋先生を讃う」

の合吟を拝聴して

参与 宇都宮 岳 徳

昨年11月28日の「吟詠と詩舞の集い」で幸和支部による掲題の律詩の合吟を聞いて心に激震の走る感激でした。それは23年前に私が作詩したもので、準師範になつて間もない頃、当時六代御前の前の会館二階で行われていた指導者講習会で日本詩吟学院岳風会理事長であった松井先生から長物の詩吟の御指導を受けた後の休憩時間に厚くましくも此の詩文を指導者の先生方に配って、私の符付けで吟じました。吟じ終つて先生に「詩文並びに符付け」について御指導をお願いした処「この詩

はよく出来ておるが褒め過ぎですよ。」又「吟道家の私達は作者の作意を忖度して符付けするもので作者の貴殿が付けた符付けに云うことではないのです。」との言葉を頂き、恥かしさと嬉しさで感動した次第で未だに脳裏に焼きついています。

図らずも鳴原隆風先生率いる幸和支部の皆様が合吟して頂き感激を新たにしました。同支部の皆様は厚く御礼申し上げます。

松井岳洋理事長を頌す

宇都宮 岳 徳

祖宗に師事して教鞭を受け

研鑽五十有余年

岳風学院の経営健かに

後進会員の指導鮮かなり

素読磨き盡して韻読を創め

詠吟是を用いて幽玄を益す

献身弘道恆に垂範し

流統は為に旁く應に永えに傳うべし

碩心会のホームページ

URLを直接打ち込むか、グーグルやヤフーの検索欄に「詩吟、碩心会」と打ち込んで検索すると今のところトップに表示されます。

URL <http://sekishin.holy.jp>

「碩心」四〇〇号に寄せて

滝の坂支部 野 口 聖 風

松井岳洋先生の書かれた広報「碩心」の題字を見るたびに、碩心会に学ぶ者としての「こころ」という事を考えます。縁あって詩吟を始めてから8年という月日が流れ、吟の難しさや楽しさ、奥深さがほんの少しわかって来たような気がします。広報「碩心」も四〇〇号を発行ということで会員の多くの方々の努力や協力の賜ものである、と深く感謝しお祝い申し上げます。

私の人生の中の趣味という部分で今は、詩吟と俳句に時間を費やしておりますがどちらにも相通じることが心に沁み入るように「こころ」を込めるといふことだと思っております。いい加減に流していたのでは良い結果は得られないものです。稀薄な心には稀薄な結果しか付いて来ないし、誠の心を持って対し、持続すれば必ず密度の濃い素晴らしい結果を得ることが出来ると信じます。

優れた立派な心という題字の意に恥じないよう「こころ」を込めて日々練習を重ね、声高らかに吟に精進して行きたいと思えます。

平成22年【碩心会初吟会】会計報告				平成21年度 吟詠と詩舞の集い 会計報告 主管 碩心会 葉山地区			
	科 目	金 額(円)	備 考		科 目	決 算 額(円)	摘 要
収入の部	前期繰越金	634		収入の部	地区別温習会費収入	57,795	本会計より受入
	参加費	596,000	149名×4,000円		出吟料収入	181,000	@1,000/人×181名
	雑収入	8,000	新総伝者8名より御祝儀		懇親会参加費収入	120,000	@1,000/人×120名
	合 計	604,634			雑 収 入	10,000	俳句の会2名祝儀
支出の部	飲食代	520,035	お弁当149名×2,000円 飲物代他	支出の部	収入合計	368,795	
	式典・懇親会	42,100			会議費	7,044	会議資料等
	参加賞	15,015	余興参加賞		会場費	92,900	ホール・大会議室等使用料
	保 険	3,848	傷害保険		看板ポスター	10,456	
	事務・通信費他	13,785	コピー・Fax・文具・事務 連絡・看板		プログラム製作費	14,932	
	会議費	3,720	担当支部・企画部準備		飲 食 代	215,316	お弁当187 飲物代他
	交通費	3,000			傷害保険料	2,912	
	次期繰越	3,131	企画部預かり		雑 費	8,235	
合 計	604,634		予 備 費	17,000	映像・俳句の会お礼		
				支出合計	368,795		

会員のうごき

*入会

- 238 五十君よし (東伏見)
葉山町堀内1950-8
☎046-875-8267 紹介者 大内翠岳
- 239 井戸田喜美子 (幸和)
横浜市戸塚区品濃町537-20
パークタワー東戸塚A2201号
☎045-821-5305 紹介者 大江晴岳

*退会

- 13 佐藤英風 (東伏見) 115 渡辺英岳 (幸和)
- 189 保志順泉 (滯朗) 214 新田拓作 (渚) 死亡

編集後記

「碩心400号」記念号を計画しましたところ皆様より沢山の原稿を頂き有難うございました。

紙面の都合で今回記載できなかつたものは次号以降掲載させて頂きます。

支部紹介は今回お休みさせて頂きました。

広報部

22年3月1日現在	会 員 数
葉 山 地 区	1 2 6 名
逗 子 ・ 大 船 地 区	9 0 名
合 計	2 1 6 名